

# 学校ビオトープ「いのちのタイムカプセル」 2015.3.2 完成



こんなビオトープが学校にあったらいいなという子どもたちの夢やアイデアが、みんなの力で実現しました。



池、魚のかくれが、小川、湿地帯、草地、巣箱、そして橋や小道、すてきなけいじ板もできました。



武庫庄小学校の校庭は、かたくて、かわいているので草が少なく、虫や小動物がすむのに向いていません。そこで、もっと生き物がすみやすい土地にして、生き物がいっぱいの学校、子どもたちが自然や生き物とふれあえる学校にしようと、創立40周年をきっかけとして学校ビオトープづくりがスタートしました。

はじめに作ったひょうたん型の池について、小川、橋、小道、けいじ板ができ、池と小川の間をポンプによって水がまわっています。

池には、すでにギンヤンマなどのトンボがたまごをうみに来ています。ヤゴや飛んできた水生昆虫のほかにも、田んぼの土にまじっていたカブトエビも見られます。

ビオトープには、もともとあったその土地の自然に近いようすにもどし、守るという役わりもあります。まず、今まで校庭にはなかった野草を近くの田んぼからうつしましたが、他にも外来種(外国からきた生き物)ではない、この土地に昔からある野草もふやしたいなと思っています。

ビオトープは自然な形で生き物が自分で生きていく場所です。エサをやって生き物を飼う場所ではありません。ですから、◎生き物が来るのを待つ。◎もし入れるとしてもメダカなど昔から日本にいる生き物。◎特にカダヤシ、アメリカザリガニ、ミシシッピアカミミガメ(ミドリガメ)、ホテイアオイなどは外国から来た生き物なので、入れないというのがルールです。

ですから、ビオトープには、石やゴミはもちろん、生き物でも、**かってに入れないでください。**もし、昔からこの土地にいる生き物をいれたいときは、まず、先生にそうだんしてくださいね。



ヤゴの抜け殻 産卵中のクロスジギンヤンマ キチョウとイチモンジセセリ ツマグロヒョウモンの幼虫 カブトエビ  
メジロ ツグミ モズ ハクセキレイ コサギ

毎日新聞 二〇一四年五月九日 阪神版の記事

池の周りを整備する子どもたち  
「尼崎市武庫庄小3の市立武庫庄小学校」

## 水生生物観察楽しみ

が訪れ、水辺での暮らしを体験できる。日を楽しみにしている。子どもたちが防水シートをかかるとして、

毎日新聞社と、国際花と緑の博覧会記念協会は、このほかに、同小を、生物を呼び込む環境をつくる「生態園」の対象校に選んだ。トンボ池は校舎裏の、1年を通じて水生

生物の観察ができるようになる。メダカの飼育も検討しており、阿部社一郎校長は「自然の中で遊ぶ楽しみを、今の子どもたちに味わってほしい」と語る。今年度から、児童たちによる「環境委員会」が池の管理も担う。同小では「いのちのタイムカプセル」として、代々の児童により10年後まで豊かな水辺の環境を整える。

今月7日にも6年の児童がスコップを持って、池周辺の土をならすなどした。同小6年の豊田翔真さん(11)は「池ができる日が楽しみです。トンボなど、たくさん生き物が暮らすようになりたい」と話していた。

【大森倫博】

空地で整備。池はひょうたん型で長さ約10メートル、幅は最大で約5メートル、深さは約20〜40センチ。地面を池の形に掘り、児童たちが防水シートをかかるとして、

同小の周囲の田んぼは田んぼのシースンになる。トンボ池は、池の水を抜く。田の水を抜く。トンボ池は校舎裏の、1年を通じて水生

### 生態園をつくらう

<http://mainichi.jp/area/kansai/biotope/>

### 尼崎・武庫庄小にトンボ池

児童ら野草植え小川も